

第2回 商品売買取引 問題用紙

第1問

次の資料に基づき、先入先出法による場合の(1)損益計算書(売上総利益まで)を完成し、(2)商品の貸借対照表価額を求めなさい。棚卸減耗費および商品評価損は、売上原価の内訳項目とする。

<資料1>

決算整理前残高試算表(一部)				(単位:円)
繰越商品	80,000	売上		783,000
仕入	528,000			

<資料2>

1. 当期中に売上値引・割戻14,000円と売上割引8,000円が行われていたが、いずれも売上高から直接控除されていた。なお、値引・割戻および割引前の販売単価は700円で、期中一定であった。
2. 期首商品棚卸高と当期商品仕入高は次のとおりである。

	数	仕入単価
期首商品棚卸高	200個	400円
当期商品仕入高	1,200個	440円

3. 期末商品の実地棚卸高は240個(時価@380円)であった。

第2問

次の資料により損益計算書(経常利益まで)を完成しなさい。

<資料1>

決算整理前残高試算表(一部)				(単位:円)
繰越商品	750,000	売上		3,697,500
仕入	2,850,000	仕入戻し		120,000
売上戻り	135,000	仕入値引・割戻		30,000
売上値引・割戻	52,500	仕入割引		90,000
売上割引	60,000			

<資料2>

1. 商品の期末棚卸高は次のとおりである。
 - (1) 帳簿棚卸高 各自推定 個 単価 600円
 - (2) 実地棚卸高
 - ① 良品 950個 単価 570円 (時価)
 - ② 品質低下品 30個 単価 375円 (評価額)

なお、商品評価損は売上原価の内訳項目として表示し、棚卸減耗費は販売費及び一般管理費に表示すること。

2. 当期の売上原価率は80%である。

第3問

次の取引において各当事者の仕訳を示しなさい(商品売買取引には三分法を用いる)。

- (1) A社は得意先のB社から注文を受けて商品234,000円を掛で船便発送し、同時に銀行で150,000円の荷為替を取り組み、割引料9,000円を差し引かれて、手取金を当座預金に預け入れた(A社の仕訳のみ示しなさい)。
- (2) B社は、取引銀行から(1)の荷為替について引受を求められたのでこれを引き受け、船荷証券を受取った。なおまだ商品は到着していない(B社の仕訳のみ示しなさい)。
- (3) B社は、C社へ(2)の船荷証券のうち80,000円分を100,000円で売却し、代金のうち30,000円はC社振出しの約束手形で受け取り、残額は掛とした(商品未到着であり、船荷証券の売買については分記法で処理している)。
- (4) B社は、残る船荷証券およびそれ以外の全部について商品が到着したので当該船荷証券と引換えに当該商品を受取った。なおその際引取運賃7,500円を小切手を振り出して支払った。
- (5) D社は、E社に当期に仕入れ商品850個(仕入原価@500円、販売価格@800円)を積送し、発送運賃および保険料等の合計6,800円を現金で支払った(手許商品区分法)。
- (6) E社は、(5)の商品の販売を委託され、商品を受け取るとともに引取運賃3,000円を小切手の振り出しにより支払った。
- (7) E社は、受託した商品200個を販売し、代金はE社の当座預金口座に入金された。
- (8) E社は、D社に仕切精算書を送付するとともに、手数料および引取運賃の合計額7,000円を差引いた残額をD社の当座預金口座に入金した。

第4問

次の取引において販売基準と回収基準で必要な仕訳を示しなさい。なお回収基準は、未実現利益控除法および対照勘定法を用いること。なお、これ以外の取引は考慮しないものとする。

- (1) 商品400個(原価@600円、売価@750円)を12ヶ月月賦で販売した。
- (2) 第1回目の割賦金が入金された。
- (3) 決算日を迎えた。なお決算日までに第5回目の割賦金が入金されている。
- (4) その後、代金の回収が不能となり、商品を取り戻した。その評価額は20,000円である。それまでに第7回目の割賦金が入金されている。なお、この割賦金に対して貸倒引当金は設定されていない。

第5問

次の決算整理前残高試算表(一部)と決算整理事項から、必要な決算整理仕訳を示し、答案用紙の損益計算書を完成させなさい。当社は一般販売のほかに割賦販売を行っている。

		決算整理前残高試算表(一部)		(単位:千円)	
売掛金	243,000	貸倒引当金	6,000		
割賦売掛金	185,000	繰延割賦売上利益	5,760		
繰越商品	120,000	割賦売上	340,000		
仕入	900,000	一般売上	600,000		

決算整理事項

- 1 割賦販売の売価は、一般売価の10%増しとなっている。割賦販売の利益率は前期と当期で変わらない。割賦売掛金の残高はすべて当期に発生したものであり、そのうち85,000千円は回収期日が到来しているが未処理である(回収期限到来基準)。
- 2 当期末の手許商品:180,000千円
- 3 売掛金および割賦売掛金の期末残高に対してそれぞれ3%,4%の貸倒引当金を設定する。
- 4 割賦販売には金利要素を含まないものとする。

第6問

次の決算整理前残高試算表(一部)と決算整理事項から、必要な決算整理仕訳を示し、答案用紙の損益計算書を完成させなさい。当社は割賦販売と試用販売を行っている。

		決算整理前残高試算表(一部)		(単位:千円)	
試用販売契約	45,000	貸倒引当金	3,200		
割賦売掛金	160,000	試用仮売上	45,000		
繰越商品	100,000	繰延割賦売上利益	100,000		
仕入	500,000	試用売上	125,000		
		割賦売上	546,000		

決算整理事項

- 1 試用販売は当期から開始している。
- 2 割賦売掛金の期首残高は250,000千円であり、当期にすべて回収している。
- 3 割賦販売の売価は、試用販売の20%増しである。割賦販売の利益率は各期同じである。
- 4 期末手許商品有高:150,000千円
- 5 金利要素は考慮しないこと。
- 6 回収基準を採用している。
- 7 当期から割賦売掛金の期末残高に対して3%の貸倒引当金を設定する。